

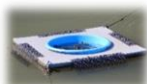
事業の背景・目的

本協議会では、流域単位のアカミミガメ低密度管理の可能性を示していることから、流域単位の持続的な低密度管理を目指し、アカミミガメ防除に取り組む。また、アカミミガメ防除が他の生物に与える影響やニホンイシガメを防除効果の指標として用いることの可能性について検証する。さらに、特定外来生物ナガエツルノゲイトウがアカミミガメ防除に用いる罠の設置・回収に伴い分布を拡大する恐れがあることから、アカミミガメ防除を円滑に進めるため、ナガエツルノゲイトウの早期発見・駆除にも取り組む。これらの取り組みや得られた成果・知見について、他の自治体等への情報提供や市民への啓発等に用いることで、在来の生態系の保全・保護を図る。

事業の内容

瀬戸川流域における取組

- 河川及び周辺ため池での広域を対象としたアカミミガメ防除
- 特定外来生物ナガエツルノゲイトウの早期発見と駆除



谷八木川流域における取組

- 河川流域内のため池23箇所を含めた広域を対象としたアカミミガメ防除の実践

明石川流域における取組み

- ニホンイシガメが生息する3つのエリアの重点的なアカミミガメ防除の実践
- ニホンイシガメをアカミミガメ防除の効果を検査するための指標として扱うことの適正評価



市民による防除活動の技術的支援と普及啓発

- アカミミガメが日光浴する特性を利用した日光浴罠を貸し出すなどため池での市民による防除活動の技術的支援や淡水ガメの視点からの生物多様保全の啓発
- 令和元年に発行した「誰でもできるアカミミガメ防除」を環境学習等を主催する団体や施設への配布・活用



アカミミガメ防除による生物への影響の検証

- アカミミガメが水中で動物の死骸を食べることから、生態系における分解者に対して与える影響について、防除実施エリア（瀬戸川、谷八木川、明石川（防除箇所））と防除未実施エリア（赤根川、明石川（未防除箇所））の比較による検証の実施

得られた成果

事業の成果

- 瀬戸川の目標値(誘因罠CPT1.0)を超過した河川区間データを分析し、効果的・効率的な誘因罠の設置方法を立案した。
- 2018年度以降、谷八木川の誘因罠CPTは低下傾向にあり、ため池の日光浴罠CPTも当初より低下した(ため池22/23箇所)。
- 魚類の死骸を用いた防除区域と未防除区域の比較調査より、アカミミガメが生態系の分解者に悪影響を及ぼすことが示唆された。
- 淡水ガメ食性調査によりアカミミガメとニホンイシガメの餌資源競争が推測され、防除指標としてニホンイシガメを扱うことは有用と考えられた。
- ナガエツルノゲイトウの分布拡大防止のため早期発見・駆除を行った。

活動継続の見通し、事業終了後の展開等

- アカミミガメやナガエツルノゲイトウの防除、生態系改善の指標とするニホンイシガメ等の調査に継続的に取り組み、在来種の保護・保全に取り組む。
- ため池管理者等の市民がアカミミガメ防除に取り組み、持続的な活動に繋がるようにさらなる働き掛けを実施する。